

## 北朝鮮問題に対する日米大学生の見解

フリーランド圭子、会田裕馬、ジョナサン・ファン

### 読み原稿

#### Slide 1:

これから私たちのキャップストーンについて発表します。

私はフリーランド圭子です。

私は会田裕馬です。

私はジョナサン・ファンです。

私たちの研究タイトルは、北朝鮮問題に対する日米の大学生の見解です。

#### Slide 2:

これが私たちの研究概要です。

#### Slide 3:

何故この研究をしたかというと

私の場合は日本人として、拉致された人たちの安全な帰還を案じていからです。また北朝鮮の日本に対する行動には最近脅威を感じており、それに対する日米政府の対応を知りたいと思ったからです。

私の場合は、日本への留学中、テレビでよく北朝鮮の独裁政権に関するニュースが放映されていました。アメリカ育ちの私は、北朝鮮問題への認識が低かったため、米国の学生がどのような視点をもっているのかしりた

かったからです。

私の場合は、北朝鮮のミサイル発射実験と核兵器の脅威についてのニュース耳にし、他国に緊張を巻き起こす北朝鮮問題について興味をいただきました。また、どのようにアメリカの学生がこの問題について認識しているか知りたかったと思ったからです。

#### **Slide 4:**

これが私たちの**研究質問**です。

1. 北朝鮮政府に対する日米大学生の見解は何か
2. 北朝鮮と対立している問題に対して、日米の大学生はどのような認識を持っているのか
3. 北朝鮮との対立問題に対し、日米の大学生はどのように解決案を考えているのか。

#### **Slide 5:**

これが**研究背景の概要**です。

#### **Slide 6:**

それではこれから、北朝鮮の歴史について、簡単にお話します。

第二次世界大戦後、朝鮮半島はアメリカとソビエト連邦によって、2つに

分割され、北朝鮮はソ連の支配下に、韓国はアメリカの支配下になりました。そしてソ連は、北朝鮮のリーダーとして金日成（キム・イルソン）氏を指名しました。

### **Slide 7:**

**それ以来、キム氏の家系が政権を握っており、金日成（キム・イルソン）**

氏の時代に、日本人の拉致問題が起こりました。キム・イルソン氏は息子であるキム・ジョンイルを後継者として育て、1994年から17年間、政権を握り、この時代には、増々経済が悪化し、深刻な食糧不足にも陥りました。2011年にはキム・ジョンイルの三男、金正恩（キム・ジョンウン）が政権を引き継ぎ、核兵器開発プログラムの拡大、ミサイル打ち上げ実験等、軍事力の強化に力を入れ、世界に力を誇示しています。

### **Slide 8:**

**日本人拉致問題は、金日成（キム・イルソン）時代に発生しました。**

それは1970年代から1980年代にかけて、赤い矢印にあるように日本と

ヨーロッパの沿岸部で発生しています。拉致被害者数は17名です。

拉致目的は、

1. 拉致した日本人になりすました北朝鮮工作員を、韓国へ送り込むため

2. 拉致した日本人被害者から、北朝鮮工作員の育成のため、日本語や日本文化の教育を行わせるためです。

**Slide 9:**

次に日本人拉致問題に対しての日本政府と、北朝鮮政府の対応について説明します。

日本政府は、北朝鮮政府に対して、拉致した17名の日本人の返還を求め続けてきましたが、北朝鮮側は、日本人拉致を、20年間否定し続けてきました。

大きい進展が見られたのは、2002年、小泉首相が北朝鮮を訪問、直接、金日成（キム・ジョンイル）氏に日本人拉致問題について協議すると、キム・ジョンイルは、13名の日本人拉致を認め、謝罪し、同年の10月、日本人拉致者5名の、日本への帰国が実現しました。

また、残りの8名に関しては、すでに死亡との報告がされ、以後再び北朝鮮の無回答状態が続いています。

**Slide 10**

次は北朝鮮と米国の政府の違いについて話します。北朝鮮は社会主義共和国で金正恩の独裁政権で軍事力を高め国を強く見せることに力を入れています。一方、アメリカは、米国憲法に基づく連邦共和国で、連邦政府と

州との権力を分割させることで政府の役割を担っています。アメリカは憲法に基づく民主主義政治になっています。

### **Slide 11**

次は**北朝鮮と米国の重罪と軽犯罪の比較**について説明します。これは北朝鮮と米国の軽犯罪、重罪を表しています。北朝鮮の軽犯罪は強制収容所と死刑、米国は警告と罰金です。北朝鮮の重罪は公開死刑と拷問  
米国は死刑懲役実刑です。北朝鮮と米国の軽犯罪と重罪の例では北朝鮮の軽犯罪は暴力と他の国に逃げる事、米国は万引とスピード違反です。それで北朝鮮の重罪の例は食糧の盗難と政府への反逆で米国は殺人、強盗、放火です。

### **Slide 12**

北朝鮮の人権問題には色々ありますがここでは食品、労働、医療問題等があげられます。食糧問題としてはソ連の経済崩壊により北朝鮮の経済が弱体化し、食糧が大幅に不足します。労働問題としてあげられるのは北朝鮮政府は北朝鮮労働者を海外に派遣し、外貨収入を得ています。医療問題としては結核や白内障など予防が容易な病気に苦しんでいるため医療が充実

していません。

### **Slide 13**

次は**自由がない北朝鮮**について話します。北朝鮮の政府の自由制限に関しては次の四つがあげられます。一つは言動の自由がなく北朝鮮市民は自国をはなれることは違法になります。2つ目にあげられるのは言論の自由がないことです。

北朝鮮の政権や指導部に対する批判はできません。3つ目は情報の自由がないことです。金正恩政権は報道と情報の権威と管理権を持っているため情報は限られています。最後にあげられるのが宗教の自由です。組織化された宗教は許されていません。

### **Slide 14**

次は**北朝鮮政府の形式上合意通過法**について話します。まずはじめに、最高人民会議では、国家の政策と予算の決定、採用、修正をおこないます。常任会では国家機関の法律を監督し、外国との条約を批准します。最後に北朝鮮内閣は国家管理に関する補足規則憲法を制定します。

### **Slide 15**

次のスライドは**北朝鮮と米国の軍事予算の比較**をしたものです。どちらの

国も国費は軍事費に多く費やしている点そのために経済問題に影響が及んでいる点では同じです。北朝鮮では国家の22%、アメリカでは57%も軍事費にあてています。北朝鮮ではその歪みが食料生産や教育の軽視になっています。アメリカの場合は海外援助、温暖化対策の大幅の削減という点で歪みがでています。

**Slide 16:**

金正恩（キム・ジョンウン）氏は、ミサイル打ち上げ実験も、大幅に増強しました。強力な武器が、諸外国の侵略を抑えると信じ、アメリカを始め国際的な注目を集めています。

**Slide 17:**

これは、2010年に北朝鮮が行った核兵器実験のその威力と、広島と長崎の核兵器爆弾との比較です。

北朝鮮の核兵器は、この図にもあるように広島・長崎の爆弾の4から6倍もの威力があります。

**Slide 18:**

この図は、北朝鮮のミサイル発射距離を表しています。

この図によると、今の北朝鮮ミサイルは、北アメリカまでの攻撃も可能です。アメリカは、ミサイル防衛システムを保有してはいるものの、未だ開

発中の域を超えていません。アメリカ政府は、北朝鮮の核兵器脅威を100%受け入れる準備が出来てはいないということです。

**Slide 19:**

北朝鮮の核開発のタイムラインを見てください。2013年に核弾頭用プルトニウムの抽出を開始し、2015年には、4~8核弾頭と同等のウランを保持していると推定されています。2016年の弾道ミサイルは約10個の弾頭に十分なプルトニウムを保持しているの見積もられています。そして2020年にはその約20~100核弾頭ができると考えられています。

**Slide 20:**

次は北朝鮮問題の可能な解決策、新しい制裁と北朝鮮との会談について説明します。

**Slide 21:**

では、まずはじめに、新しい制裁について説明します。トランプ大統領によって提案された新措置として行われているのは会社、銀行、などの米国金融システムの使用の禁止、新制裁措置に違反していると思われる個人の資産を押収、そして過去180日間に北朝鮮に停止した船舶や航空機の入国の禁止等があります。



**Slide 22:**

これは古い制裁と新しい制裁を比較したグラフです。オバマ政権は核開発計画に資金を提供してきた活動に焦点を当て、国連からの措置をくだしました。トランプ政権は北朝鮮経済の成長に関わる企業や団体に焦点を当て米国からの措置もきびしくおこなっています。どちらの政権も北朝鮮の核計画を止めることを目指している点では同じです。

**Slide 23:**

では新しい制裁で何が起こったのかといいますと国連は米軍に疑いのある船を調査する権利を与えたため北朝鮮に向かう疑いのある船に乗り込んだり、28隻の対北朝鮮制裁に違反の船舶の入港を禁止しました。

**Slide 24:**

2018年5月には北朝鮮と米国の首脳会議が予定されており、その間はミサイルテストは行われなくなっています。この会談がうまくいった場合北朝鮮の非核化そして平和な外交が期待されます。しかしうまくいかなかった場合、北朝鮮との緊張が高まり、北朝鮮はミサイルを製造し続けるおそれがあります。

**Slide 25**

これからアンケート調査の結果について発表していきます。

## Slide 26

これが**研究方法**です。

アンケートは日本人大学生46名、アメリカ人大学生40名の合計86名  
によって調査を行いました。

調査方法は、オンラインで、Google Formを使い日本語と英語で行いまし  
た。

## Slide 27

**回答者の、出身地については、アメリカ人大学生はほとんどの人がカリ  
フォルニア州の出身です。**

**日本人の大学生は、多い順にいうと西日本の太平洋側と日本海側、そして  
東日本の太平洋側となっています。**

## Slide 28

**これは日米の学生が、北朝鮮について、どこから情報を得ているかと言う  
質問に対する答えです。**

日本人大学生は、テレビのニュース番組が一番多く、後は、インターネッ  
トのニュース記事、ソーシャルメディアと続いているのに対し、  
アメリカ人大学生は、ソーシャルメディアが一番多く、続いてインター  
ネット、テレビのニュース番組となっています。

**Slide 29:**

それでは次に研究質問1. 北朝鮮政府に対する日米大学生の見解は何か、へのアンケート調査の結果を説明します。

**Slide 30:**

北朝鮮政府についてどう思いますかの質問に対して、アメリカ人と日本人の学生は北朝鮮政府が非常に不公平だと思っていることが分かりました。

**Slide 31:**

北朝鮮政府による、一般市民に対する扱いをどう思いますかに関しては60%以上のアメリカ人と日本人の学生は、北朝鮮の一般市民は非常に不公平に扱われていると考えていることが分かりました。

**Slide 32:**

北朝鮮政府による、法律を破った者に対する対応についてどう思いますかという質問の結果に対してアメリカ人の70%と日本人の59%の学生は政府の対応について不公平、又は非常に不公平だと感じていることが分かりました。

**Slide 33:**

北朝鮮政府による、北朝鮮の一般市民の言論の自由に関する制限について

どう思いますかという質問に対して、アメリカ人と日本人の学生の8割近くが言論の自由の制限を全く支持してないことが分かりました。

**Slide 34:**

北朝鮮政府による、法律の決め方についてどう思いますかの質問に関しての結果はほとんどのアメリカ人の学生は政府の法律の決め方を支持してないことがわかった一方、分からないと答えた学生も3割を超えたことが分かりました。

**Slide 35:**

北朝鮮政府の軍事予算について、どう思いますかという質問に対しての結果はアメリカ人と日本人の学生のほとんどが、北朝鮮の軍事予算を支持しないと答えましたが、わからないと答えた学生も3割を超えたことが分かりました。

**Slide 36:**

ではここで研究結果1をまとめます。一つはほとんどの日本とアメリカの学生は、全体として、日米両国の学生は、市民を平等に扱わない北朝鮮に否定的な考え方を持っていることが分かりました。また日本人とアメリカ人の学生は、自由の制限に強く反対する一方、北朝鮮の法律の決め方や軍事

予算に関しては、よく分からないと答えた学生が多かったです。さらに日本の学生の方がアメリカの学生より、北朝鮮の国費の軍事費に占める割合の高さに懸念を示していることがわかりました。

### Slide 37

では次に研究質問2、北朝鮮と対立している問題に対して、日米の大学生はどのような認識をもっているのか。に関してのアンケート調査の結果を説明します。

### Slide 38

北朝鮮との対立問題について、どの程度認識があるか答えてもらいました。アメリカ人の学生は、人権侵害、核兵器開発プログラム、ミサイル打ち上げ実験、核兵器使用に関する声明については日本人の学生よりも認識が高いことがわかりました。その一方で、日本人の学生は日本人拉致被害者の返還交渉に関してアメリカの学生よりも認識度が高いことが示されました。

### Slide 39

下記の北朝鮮との対立問題について、あなたはどのくらい懸念していますか。に関しては、日本人の学生は核兵器開発プログラム、ミサイル打ち上げ実験についてはアメリカの学生よりも、より強い懸念を抱いていることがわかりました。またアメリカ人の学生は人権侵害、日本人拉致被害者の

返還交渉問題について日本人の学生よりも、強い懸念を示していることが分かりました。

#### Slide 40

次の事項について、米国政府はどの程度懸念していると思いますか。の問いに関しては、**90%以上のアメリカ**と**70%以上の日本の両学生**は、米国政府が、核兵器開発プログラム、ミサイル打ち上げ実験、核兵器使用の声明について懸念していると考えています。しかし人権侵害や日本人拉致者の返還に関しては、両国ともに米国政府はあまり懸念していないと考えていることも分かりました。

#### Slide 41

次の事項について、日本政府は、どの程度懸念していると思いますか。の質問に対しては、**95%の日本人の学生**は、日本政府は北朝鮮のミサイル打ち上げ実験を懸念していると考えています。その一方で、**90%のアメリカ人の学生**は、日本政府が日本人拉致被害者の返還交渉問題について懸念していると考えているという結果が出ました。

#### Slide 42

北朝鮮のミサイル打ち上げテストや核兵器実験は北朝鮮がどの国を意識しての実験だと思いますか。については、**日米両国ともに97%の学生**が、北

朝鮮の核兵器開発やミサイル打ち上げ実験の主な標的国は、アメリカを強く意識していると考えています。また、その他の標的国として、日本と韓国がアメリカに続いていました。

### Slide 43

ではここで**研究結果2のまとめ**をします。

まずはじめに日米両国の多くの学生は、日米両国の大多数の学生は、北朝鮮の核兵器開発や兵器使用について強い懸念を示している一方、日本人拉致被害者の交渉問題は、日本人の学生よりアメリカ人の学生の方がより案じています。

さらにアメリカの多くの学生は、日本政府は拉致問題について最も懸念していると考えているのに対し、日本の多くの学生は、日本政府はミサイル打ち上げ実験についてを最も懸念しているとの見解の違いが見られます。

最後に日米のほとんどの学生は、北朝鮮の核兵器実験の一番の標的国は、アメリカだと思っている。その他の標的国として日本、韓国と続いていることがわかりました。

### Slide 44:

次に研究質問3、北朝鮮との対立問題に対し日米の大学生はどのように解決案を考えているか。に対するアンケート調査結果を説明します。

**Slide 45:**

下記の問題解決について、平和的な話し合いは効果があると思いますか。

と言う質問に対しては、平和的な話し合いが北朝鮮問題に対して効果がある  
と考える学生の割合がより高いことを示しています。

**Slide 46:**

北朝鮮の核兵器保持やその開発プログラムの問題解決のための、トランプ  
大統領の発言についてどう思いますか。に関しては、約50%の日本人の学  
生は、トランプ大統領からの発言が有効であると考えているのに対し、ア  
メリカ人の学生の約77%が効果がないと思っています。

**Slide 47:**

北朝鮮の核兵器保持とその開発プログラムを阻止するための、新しい制裁  
措置についてどう思いますか。と言う質問には、日本の学生の約40%は新  
制裁が効果的だと信じているが、55%のアメリカ人学生は効果がないと考  
えています。

**Slide 48:**

北朝鮮問題解決のために、軍事行動を起こすことについてどう思います

か。に関しては、軍事行動の有効性に関する両学生の考えは類似している  
が、アメリカの学生より約10%多くの日本人の学生は効果的であると考え



ています。

**Slide 49:**

それではここで研究結果3のまとめます。両国の学生の半数は平和的な話し

合いが北朝鮮問題に対して効果があると思っている一方で、軍事行動の有効性を信じる日本の学生の割合はわずかに高かったです。また、核兵器保持、開発に関するトランプ大統領の発言に関しては半数近くの日本人が効果があると考えているがほとんどのアメリカの学生は効果がないと思っていることがわかりました。制裁措置に関しては効果があると回答したアメリカの学生の数は非常に少ないのに対し、半数近くの日本の学生は制裁効果があると考えていることがわかりました。

**Slide 50:**

それではここで、この**研究の結論と考察**を述べたいと思います。

日米両国の学生の大部分が、北朝鮮政府に対して否定的な考えを抱いており、これはおそらくメディアの影響からだと思われる。また「わからない」と答えた学生も少数ではなく、これは北朝鮮政府が閉鎖的で情報の公開がなく、正確な体制を知ることができないからだと考えられます。

**日本人の学生は安全性に対する危機感からか、北朝鮮の核兵器開発使用問**

題とミサイル打ち上げ問題について強い懸念を示し、アメリカ人の学生は  
多国籍の国民性から来る人権への尊重重視性からか、日本人の返還問題な  
どの人権侵害についてより強い懸念を示していることが分かりました。

トランプ大統領の声明の有効性、新たな制裁、軍事行動について、両国の  
学生の意見は異なる。しかし日米の学生の過半数が、北朝鮮との対立には  
平和的な議論が問題解決になる可能性があると考えている一方でより積極  
的な対応に期待している日本人の学生も少なくなかったです。

#### **Slide 51**

**最後に、この調査研究が終わった時点で、北朝鮮に新たな動きがありまし  
たので、それを加えたいと思います。**

**4月27日に、11年ぶりの南北首脳会議が実現し、金正恩（キム・ジョンウ  
ン）委員長と、韓国の文在寅（ムン・ジェイン）大統領が、「完全な非核  
化を通じ、核のない朝鮮半島を実現する」に向けて対談を行い、非核化、  
平和定着、南北関係の発展を目指す共同宣言に署名しました。**

**両首脳はさらに、1953年の休戦協定で終わった状態になっている朝鮮戦争  
を正式に終結する平和条約について、年内締結を目指すと発表しました。  
また同時に日本人拉致被害者の解決への期待も高まっています。**

## Slide 52

**研究の限界点と将来の研究課題**に関して、お話しします。

まず、**研究の限界点**として、北朝鮮の閉鎖的な国柄と、日々変化のある課題のため、研究背景のための正確で学術的な情報源が見つげにくかったこと、またアンケート調査参加者割合に女性が多数であったことがあげられます。またほとんどのアメリカ人の学生はカリフォルニア出身だったため結果は一般化はできません。

**将来の研究課題**としてはどのように核兵器開発を開発、拡大できたのか。

日本人拉致被害者の帰還後の生活についてについてももっと知りたいとおもいました。また彼らから明らかになったきている北朝鮮の市民の生活についてももっと詳しく知りたいと思いました。

## Slide 53-57

これが**参考文献**です。

## Slide 58

### 謝辞

最後にアドバイザーの斎藤-アボット佳子教授、関根繁子教授、ご協力頂きました、デイヴィッド・ベネット、クリスティーン・ファーンデイズ授、小垣智子教授、アン・ホアン教授、皆さまの多大なるご指南、ご協力なしではこの研究を終えることは出来ませんでした。本当にあ

ありがとうございました。